

劔岳早月尾根および北方稜線偵察

【日程】2013年9月29日～2013年9月30日

【エリア】立山・劔

【形態】ハイキング

【メンバー】Y、O

【報告】0（北方稜線偵察はY）



《ルート／タイム》

9月29日 馬場島 (9:15) ～早月小屋テント (15:00) 幕営

9月30日 幕営出 (4:40) ～劔岳 (7:50) ～Yのみ池の谷の頭まで往復 (所要1時間45分) ～幕営地撤収後出発 (12:00) ～馬場島 (16:00)

《報告》

9月29日

土曜日の23時を回ってから奈良を出発する。途中、敦賀近辺で仮眠をとる。天候は上々、立山インターを降りる頃から劔岳の険峻な刃が手に取るように見える。

思えば、2年前に室堂から入って、立山三山を縦走した後、劔沢テント場で宿泊した。翌日は劔岳本峰を踏んで北方稜線を縦走する予定だったのだ。ところが、降雪により登山禁止の通達がされ、悔しい思いで劔の頂きを踏むことができなかったのを思いだした。



(左) 馬場島手前の林道より。劔岳 (右) 試練と憧れの石碑

馬場島に到着し、9時過ぎより登山開始。試練と憧れの石碑が特徴的だ。松尾平を越えてからは2200mの早月小屋テント場まで景色はそれほど変わらない単調な登り。小窓尾根の岩稜と猫又山が風景を変えてゆく。

15時、コースタイム通りでテント場に到着。夕暮れまでに一日の山行が終了する登山スタイルは久しぶりかもしれない。大体5時か6時か日暮れまでみっちり行動していることが多いからだ。

水場のない尾根なので、2リットル800円のペットボトルを小屋で調達。雲海たなびく立山や猫又山方面を楽しみながら、ゆっくりと日は暮れてゆく。明日は長い一日が予想されるため早々に就寝。

9月30日

3時半に起床の予定が15分遅れる。朝食に取り掛かる時間が遅いとY氏に指摘され、チーズたっぷりのパスタを駆け込みで食したのが応えたのかもしれない。4時半過ぎからヘッドランプをつけて行動するも、どうも本調子が出ない。

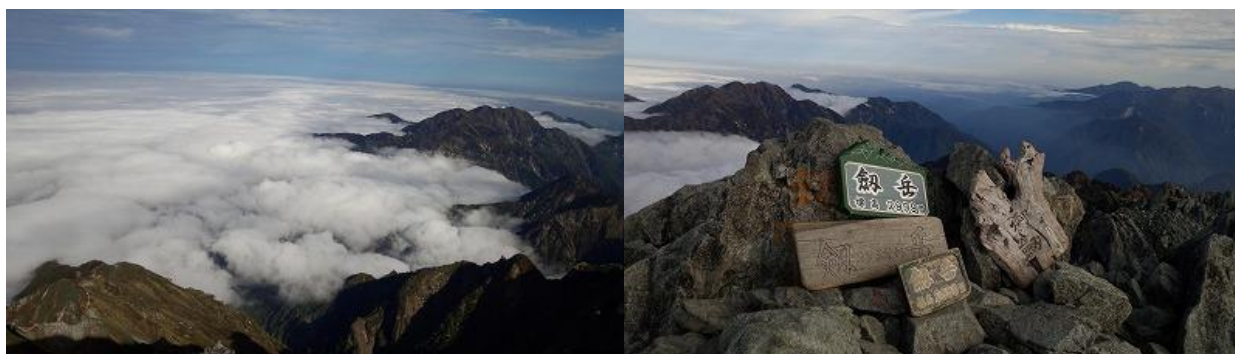
調子が出ないどころか、2400mを越えたテラスあたりから朝食を吐瀉してしまう。これからは朝食の内容にもう少し気をつけよう。胃をからっぽにして、気をとりなおす。43座目の百名山はそう簡単には登らせてはもらえないようだ。この時点で北方稜線はタイムアウトになりそうなので、Yさんに池の谷の頭までのピストン偵察をたくす。



(上) 紅葉と小窓尾根の岩稜

2600m を越えると鎖と虎ロープの連続。しかしホールドはしっかりしているので、着実に進めば何ら問題はない。天候は上々。8時前に無事に劔岳本峰に到着。

立山、槍ヶ岳、富士山、南アルプス、八ヶ岳、白馬岳など、視界から望める山は名山ばかりだった。



(左) 雲海たなびくアルプスの山 (右) 頂上の祠は無くなっていた。



(上) 北方稜線入り口からみる八ツ峰

満足して 2200m のテント場までゆっくりと下る。山域の紅葉ははじまっている。ナナカマドと岩稜の組み合わせが素晴らしい風景を演出していた。

北方稜線から帰ってきた Y さんと無事に合流して、馬場島へ。12 時テント場スタートで 16 時到着。Y さんとは 1 時間差が開いた。しばらく山をお休みしていたのでいた仕方ないだろう。2200m の下りを無事に終えて、富山市内で回転寿司を堪能し、帰奈へと車を走らせた。

北方稜線視察 （報告 Y）

北方稜線には久しく訪れていないので池ノ谷乗越迄のルートがあやふやである。今回、空白を埋めるため池ノ谷尾根の頭までを往復した。O 氏は体調が悪いため剣本峰往復にとどめ、一人で北方稜線を辿る。本峰の下りは問題なく、長治郎の頭との鞍部へ。ここからの登りは左右 2 ルートあり、それぞれ残置ロープがぶら下がっている。ホールドは豊富だが、一部傾斜は強い。右のロープを使って登り、バンドに入りそのままトラバースする。頭を廻り込んで徐々に下り、岩棚の狭いバンドをトラバースする。スリングが 2 カ所残されており、滑落は厳禁である。ここからはほぼ稜線の長治郎谷側を歩くが、一カ所のみ池ノ谷側に移る。池ノ谷尾根の頭からは八ツ峰の頭が目の前に見え、池ノ谷乗越まではザレた下りが続いている。同じルートを辿り、剣本峰に戻った。1 時間 45 分の行動であったが、少しだけ秋の岩稜歩きを楽しめた。



本峰下りより長治郎の頭



長治郎の頭の岩棚トラバース



池ノ谷尾根の頭より本峰